

日中友好新聞

日中友好協会
愛知県連合会
県連版第335号
〒464-0821
名古屋市中種区
末盛通4-18
電話052-763-1152
Fax 052-763-1153
http://www.
nittyu-aichi.jp
E-mail: jc77918@
amber.plala.or.jp
郵便口座
00890-6-25484

「日中関係について」(大西広) 豊田支部総会記念講演



の演題で一番の中心は「日中関係」だ。◆直近に出版した『人口ゼロの資本論』では、若者の貧困化を一番問題とした。労働者(人口)不足を外国人労働者で補おうとしても解決しない。西欧は歴史的に見ると後進国からの搾取(奴隷制→植民地→外国人労働者の順)で栄えてきた。

◆欧米・日本の「軍事同盟」を軸とする旧覇権国に対し、中国はグローバルサウス等との「経済援助」による新覇権国をめざしている。「新冷戦」とよばれる米中対立の構図である。現代は軍事的緊張による一部の冷戦から経済力による支配への転換期で、中国も世界のためといながら自国の利益優先である。◆現在の中国はバブルで(日本も)、この間の日本と同じ道をたどると言われているが、実勢値の4倍くらいだった日本のバブルに比べ、中国は2倍くらいだから言われるような危機的ではなく乗り越えるだろう。

◆今年(2024)1月の台湾総統選挙と立法院選挙(総選挙)のとき、台湾で取材した。結果は与党「民進党」が総統選で勝ち(4割の得票)、総選挙で負け(重要なのは第3極の「民衆党」が26%(若者の票の過半数)を獲得し、議席が民進党51、国民党52、民衆党5↓8議席と躍進し、キャスティングボートを握ったことだ。日本の維新のようで、また若者向けの主張が多いが、これだけ取ると責任も増す。台湾の「現状維持」は、以上のように複雑でしたがって中国も第3極も含めて考慮しなければならぬ局面だ。

◆台湾有事を米国が作り出しているが、台湾が「国」のようになってしまった大きな原因として「日本の植民地の50年」がある。過去に罪をおかした日本が、再度米国といっしょになって台湾をめぐる戦争をけしかけることなどは決してあってはならない。

◆最後に中国政府に提言したいのは、台湾が中国の「国内」とするならば、台湾の民衆が何を求めているかを基準に考え、また台湾の民主主義がよく機能していることを認識すべきである。そしてそれ以前に自治区的な「統一」の新たな様式が必要であろう。(決して武力によつてはいけません。)

◆3月17日に豊田支部主催の講演会「中国の不動産バブル、台湾問題と一路、日中関係」講師:大西広(慶応大学名誉教授、日中友好協会副理事長)が豊田市で開催され、50人が参加しました。以下に要旨を紹介します。(木俣博)

◆最近も頻繁に中国に行っている。本日も

中国語教室の受講生を募集中です。一緒に楽しく中国語を学習しましょう。

緑支部総会と講演会のご案内

▼緑支部は、今年度の支部総会を5月26日(日)大高南コミセンで開催し、青木茂さんを講師として講演会を実施します。

▼青木さんは中国各地をめぐる、戦前・戦中に日本軍や日本

4月拡大月間 皆さん周りの方々への入会のお誘いをお願いします

企業によって殺された中国人の人の捨て場、いわゆる『万人坑』の調査をし、多数の本を出版しています。今年2月には『南京大虐殺から雲南戦へ』(写真)を出版しました。今回の講演は同じテーマでお話しいただきます。

雲南戦の現地を旅して

柳田常樹

南京大虐殺から雲南戦へ
日本の中国侵略から敗戦に至る足跡を巡る
青木茂 (Mori Shigeaki)
大屠殺死難者国家公祭
惨劇の舞台で見た、侵略に対する中国の人びとの想いは?
日本による対中国全面侵略の初期に大虐殺が引き起こされた南京と、日本の敗戦を決定づけた雲南戦の舞台。拉武・騰越……。日中双方に忘れぬ記憶を刻んだ二つの地を巡り、日本人の歴史認識と戦争責任を考える。

▼青木茂さんが出版された『南京大虐殺から雲南戦へ』の雲南戦について、10年前に石川正之さん(緑支部会員)と2人でその付近を旅したことがあった。▼ラオスに近い景行市から、ミャンマーの国境付近の騰衝(とうしょう)市へ、3泊4日のバス旅だった。途中、保山市を経由し、怒江という大河を越えて、無事到着したのだが、この辺り一帯が日中の激戦地だったとは知らなかった。

▼しかし、そのことを感じさせるものがあった。保山市の公園では『(てん)西抗日戦争記念碑』と書かれた大きな塔があり、怒江渓谷で日中双方の戦いについて記述されていた。▼次いで、騰衝市でのショーを見た時、抗日戦争の場面が出てきて、中国軍が日本軍に負かされた後、英国空軍とともに勝利するという内容だった。それでもこの地が、なぜ、戦場になったのか理解できなかった。

▼和順郷という観光地に行った時、建物の中に抗日戦争当時の写真や展示物が掲示されていた。それによると、ここは重慶の蒋介石政権を支

中国百科検定の受験募集始まる

今回の新聞にパンフが入っています。御覧ください。応募はインターネットの「中国百科検定」からも打ち込んで申し込みできます。過去問題も無料でダウンロードできます。初級など試してください。

お知らせ

- ▼茶友会：3月16日（土）10：30～
 - ▼漢詩の会：3月31日（日）14：00～
 - ▼熱中支部（準備）
熱田・中川支部（準備）5月11or
12日に総会「支部発足集会」と現代中国に関する講演会を開催。
 - ▼豊田支部
3月17日（土）午後に「豊田支部総会」と「大西広さんの講演」を行いました。
 - ▼緑支部
3月31日（日）「日中歌声交流会」
5月26日（日）「支部総会」
 - ▼稲沢支部
6月2日（日）「支部総会」
- ▼3月9日（土）14：00～17：00
「台湾有事を起こさせないためにシンポジウム」を行いました。

愛知県豊田市に在住の2世である遠藤立男さん、遠藤君夫さん（遠藤静香さん）に代筆していただき、愛知県連の永井淑子が翻訳しました。

日本中国友好会中国国 私は残留孤児遠藤貴志の次男遠藤立男です。

63歳です。中国遼寧省撫順市萬新で生まれました。

平成4年に私費で来日しました。それから会社員として仕事を始めました。仕事を始めて1年経っても給料の昇給はなく、ボーナスも有休もありませんでした。さらさらと言えは、いつ辞めてもらっても良いという対応でした。当時はとても苦しくていじめにも遭いました。また、日本語が話せませんので、ずっと耐え続けて60歳で退職しました。

現在病氣療養中です。年金月7万円、毎月の医療費が数万円かかります。だから、生活は苦しいです。日本政府には、私たち帰国者2世の生活に関心を寄せていただき、生活の苦しみを軽減してくださることを要求します。

住所 豊田市深田町8丁目114番地 豊田グリーンハイム406
日本中国友好協会中国帰国者委員会各位（代筆者・遠藤静香、母）

私は残留孤児遠藤貴志の三男遠藤君夫、60歳です。

中国遼寧省撫順市萬新で生まれました。

妻は遠藤成美61歳です。うつ病です。

私は1991年9月11日来日、豊田市の会社で仕事を始めました。

来日の費用は私費（自分のお金）で来日しました。会社では、毎日残業でもとても苦しい生活でした。日本語もできないうちで、他の人からいじめを受けたので、ポーナスもなく、全ての待遇もありませんでした。このような毎日苦しくてうつ病になり、仕事ができなくなりました。それからはずっと病院にかかり、仕事もできなくなり、入院生活も困難で苦しいものでした。

日本政府は、私たち帰国者2世の苦しみを理解し援助して欲しいです。私は病気になるまで20年近くになりました。これから先どのように生活して良いかわかりません。

住所 豊田市朝日町宮口 県営住宅6棟301
電話 0565-32-4267 遠藤君夫 男

中国ものしりコーナー

4.5. 中国の民族衣装の起源

中国の民族衣装で、有名なのはチャイナドレスです。この服は「旗袍」（チーパオ）と言い、「旗の服」という意味があります。

ばれていました。騎馬民族なので女性も馬に乗って移動します。そのとき脚を横に出して、前からの風を防ぐためにスリットが付けられました。チャイナドレスの特徴であるスリットは、これが由来です。



「旗袍」はもとほ、漢民族ではなく、満州族の民族衣装でした。中国最後の王朝「清」は、現在の東北地方に住む異民族「満州族」によって建国されました。



中国には55の少数民族があり、彼らには独自の民族衣装があります。

貴州省、雲南省、広西チワン族自治区、新疆ウイグル自治区、チベット自治区などには多くの少数民族が住んでいます。どれも色鮮やかで素敵な衣装です。



軍人は「旗人」と呼ばれ、八つの組織「八旗」によって、軍事や政治が行われていました。彼らの着ている服は、「旗人の着る服」という意味で「旗袍」と呼

